2002年（平成14年）新年号（1）

おたる西別院だより

謹賀新年

本願寺小樽別院　本堂

人として生を受け、不思議にも今日を迎えられることを、有難く思うことです。しかし、せっかく人として生を受けても、「人」と成らずにただ虚しく日々を送り、そして死んでいくのはさみしいものです。

自分というものを知り、そして何のために人として生まれてきたかという人生の意味を知った時、人は「人」と成ります。しかしこれは何歳になったらわかる、年をとったからわかるというものではありません。我々の先輩方、聖人たちの求めた道をふみしめながら、一生かかって求め続け、歩んでいくものだといえるでしょう。もちろん追い求め続けても、ついに人と成らずに一生を終わることもあるでしょう。人に生まれながら人生を無駄に過ごしてしまうのは残念なことです。

今年も新しい年を迎えられたことを有難くおもい、一日もはやく人と成れるよう、阿弥陀如来のお導きにより、この人生の目的、真実の人となる道を聞かせていただきたいものです。

新年に際し、皆様お誘い合わせのうえ、お寺に参り聴聞しましょう。

12月29日(土)～1月6日(日)まで月忌参りをお休みさせていただきます。

蓮如上人とお正月

輪番　片山　晃英

謹んで新春のご祝詞を申し上ます。

お正月になると決まったように「蓮如上人御一代記聞書」の冒頭がとりあげられます。上人七十九歳のお正月に勧修寺村の道徳さんが、山科本願寺に参り、上人の御前にお出になったとき、「道徳、いくつになるぞ。道徳、念仏申さるべし」とおっしゃられたそうです。

蓮如上人のお気持ちを推察するに「人生は毎年のスタートが大切だよ。」というお心であったろうと思われます。

放っておけば欲望に押し流され、安易に生きようとする凡夫だからこそ、人生の節目となる元旦毎に改めて「念仏申さるべし」という、強いお叱りを頂くことが大切でありましょう。

間違っている面もありましょうが、「明日、死ぬかもしれないのが軍人だ、いつも死ぬ用意をして身辺の整理をして置くべし。」というかつての軍人さんの心構えはある一面では念仏申す人生に通用するところもあると思います。

宗祖がお得度の式がのばされようとしたときに、「明日ありと思うこころのあだざくら夜半に嵐の吹かぬものかは」と申されました。これはみ仏さまへお仕えする願いの切実さを、あらわしているのでしょう。

「思いがけず、また新しい年を迎えるというご縁を与えて頂いた。この一年を、この私をどう日暮らしさせて頂きましょうか。」と思わせるお尋ねでもあったことでございましょう。

自分の思いで生きるのではなく、常に阿彌陀さまに導かれて生きる、それが念仏者の姿でありましょう。元日の蓮如上人のお言葉を我がことと頂きましょう。

合掌

●３分間の心のともしび●

小樽別院テレホン法話

24時間
いつでもどうぞ TEL 27-1616

別院フォトクラブ

報恩講編

次回もお楽しみに。

全日本葬祭業協同組合連合会北海道葬祭業協同組合会員
社団法人全国霊柩自動車協会北海道支部連合会札幌支部
安心と信頼 if（イフ）共済会取扱店
24時間営業
小樽典礼株式会社
小樽市稲穂3丁目4番1号
TEL（代）27－1801・FAX 27－1804

寿司・仕出し・お料理
小樽の味
まちの寿司
小樽市花園1丁目1番4号
TEL 0134（25）3430

[redacted]

別院門信徒物故者（平成13年1月～11月中旬）

カブスカウト募集！

何でも話しあえる友達をつくろう。

活　動／毎月1回　土曜日　午後2時～4時
内　容／文化しせつの見学、お泊り会。
小学校2年生から5年生の男子、女子を
大募集！ぜひ連絡下さい。

TEL 22-0744 担当　温井、村田、猪口

仏教青年会会員大募集！

●活動内容／文化活動、ボランティア
月1回例会
各種レクリエーション
（ボーリング、カラオケ、スキー等）
10代、20代の男女を待っています。
ぜひ気軽によってください。

連絡 **TEL 22-0744** 担当　温井、村田、阿部

おつとめしま専科！

只今、会員さん増殖中!!　伝染するよ

対　　象／どなたでもどうぞ。
費　　用／特に必要なし！
日　　時／月2回の火曜日午後2時
お問い合せ／今すぐ別院の磯村、阿部まで…

別院年末年始の行事と催し

◎法務納め　十二月二十八日
◎除夜会　十二月三十一日　午後三時
◎除夜の鐘　午後十一時五十分
◎元旦会　一月一日午前六時三十分
　ひきつづき御流盃の儀
◎法務始め　一月七日
◎宗祖月忌法要
　一月十五日・十六日　午後一時三十分
◎新年交礼会
一、とき　一月十六日　午後四時
一、場所　別院会館ホール
一、会費　二、〇〇〇円
一、申込
　一月十日までに別院へ
　電話でお申し込み下さい。
　☎二二一〇七四四

ご案内

お晨朝
毎日　午前6時30分

常例布教
毎月7日～11日　午後1時30分
13日～16日　午後1時30分

仏教青年会
毎月1回　午後7時30分

仏教婦人会
毎月15日　正午（おときあり）

仏教壮年会
毎月6日　午後7時

おつとめしま専科!
毎月2回（火曜日）　午後2時

ボーイスカウト
毎月1回（土曜日）　午後2時

日曜仏教講座
毎月1回（第3日曜日）
午前9時30分

十九日講
毎月19日　正午（おときあり）

各説教所の案内

●**奥沢説教所**
樹心会　5日　午後7時
唯信講　10日　正午

●**若竹説教所**
彰心会　7日　午後7時

●**緑説教所**
無量講　9日　午後6時

●**新光説教所**
法友会　13日　午後6時

謹賀新年

本願寺小樽別院

輪番　双葉高校理事長　小樽幼稚園々長　片山　晃英
副輪番　西川　達恵
副輪番　会計　武藤　三孝
参勤　奥沢説教所主任　村上　隆昌
参勤　新光説教所主任　磯村　真一
参勤　梶　純信
承仕　緑説教所主任　温井　卓生
承仕　若竹説教所主任　日野　尊行
承仕　村田　法道
承仕　阿部　慶剛
承仕　猪口　大悟
書記　相馬　早苗
書記　渡部　恵
調理師　本郷　昶子

用務員　鷲頭千津子
責任役員　小紙　文隆
総代　高橋　米蔵
総代　北川　紋二
総代　竹田　栄治
総代　長谷川博俊
総代　宮本　英子
総代　福島　正紘
総代　杉本　守巧
総代　猪田　格一
仏教壮年会々長　辻井　聡克
仏教婦人会々長　宮本　英子
仏教青年会々長　岡本智恵子

小樽幼稚園職員
主任　桜井　真里
教諭　高木　美和
教諭　赤川　悦子
教諭　佐藤　美果
教諭　吉岡のぞみ
教諭　藤井　亜季
バス運転手　澤田　修二
バス運転手　伊藤　淳介
用務員　真鍋　智子

若竹保育所職員
所長　青柳　順子
主任保育士　金山　和枝
保育士　嵯峨　久世
保育士　谷藤久美子
保育士　義川　潔美
保育士　工藤　里江
保育士　野田　美樹
保育士　厚谷　弘子
調理師　森合　幸子
用務員　田中　敬子

新光保育園職員
園長　高柳　廣章
主任保育士　川口美由紀
保育士　関谷　育子
保育士　栗原　恭子
保育士　小田桐景子
保育士　若杉　倫子
保育士　下山　由果
保育士　知本　美保
臨時保育士　赤坂加奈美
臨時保育士　五十嵐　恵
臨時保育士　石上　恵理
臨時保育士　増田　知江
調理員　小林由貴子
用務員　小笠原典子
臨時事務員　柿澤　里和
調理員パート　木下　清美

十人十声

●命あるものをいただく

西川　達恵

現在、私達が生活をしている日本は飽食の時にあって季節に関係なく世界中の食べ物が手に入り、テレビでは毎日のようにグルメ番組が放映されています。最近では小樽も全国的にスポットを浴び色々なお店が紹介されると同時に、私自身そのお店に一度は行ってみたいという思いにかられます。そうした中で、食事をいただく時に合掌する姿が見うけられなくなったばかりか「いただきます　ごちそうさまでした」という声もめっきり聞かれなくなったように感じます。グルメ番組では食べ物を食材と呼んでいますが、戦後の苦しい時代を生きぬかれた私達の先達は食べ物に「お」をつけてお肉・お魚・お米・お野菜と呼び、肉にしても野菜にしても命あるものを食さねばならないというおかげさまの心を合掌の姿で表わし、自然と口から「いただきます　ごちそうさまでした」と言葉になっていたのではないかと思います。小樽別院門信徒でお念仏を喜ばれている島本邦子さんの詩を紹介します「カニを食べた　カニの一生を食べてしもうた　カニにもろうた私の今日のいのち　芋を食べた　芋の一生を食べてしもうた　芋にもろうた私の今日のいのち　そう思うたらお念仏がこぼれてならぬ」

●本当の幸せ

武藤　三孝

新しい年を迎えさせていただくことを、皆様と共によろこばせていただきます。考えてみますと、私たちは常に、人間にとって本当の幸せとは何だろうということを、見つめていくことが大切ではないでしょうか。

ところで、現在の日本人の多くは、お盆やお正月くらいしか神仏にお参りをいたしません。それは、願い事をかなえてくれたり、困った時のより所が宗教と思われているからでしょうか。

現在の人々で、お仏壇・御本尊に毎日一度でも手を合わせる家庭は、どれくらいあるのでしょう。三度の食事を忘れる人はいないが、一回のお参りを忘れる人は多いのではないでしょうか。生活の中心として仏様を仰ぐそのことから、人間生活の規律や心のゆとりが生まれてくるのではないでしょうか。

現代の社会は、人間の身勝手な思いや、都合ばかりが優先されてしまう生活であります。そういう生活の行く末を思うと、とても恐ろしくなります。

一番大切なことは、理屈ではなく義務でもない、純粋な心からの仏様への報謝の念ではないでしょうか。合掌

●三月越しの法事のこと

村上　隆昌

ある御門徒さんの家にお詣りに伺がった時法事の話になり、法事というのは三月（みつき）越しの法事は悪いといって早く切りあげるようにとか。年を越したらだめ、とかいう人があります。それにはどんな「わけ」があり、またお経に説いてあるのですか。と質問を受けました。はっきり言いまして、何の根拠もありません。どのお経にも説いてない事です。三月（みつき）という音は「身付き」に通じ、身内のものに不幸が付くと、もじったものなんです。たとえば戦時中に出征軍人に千人針の腹巻きを持たせてやりましたが、それに五銭銅貨や十銭銅貨をつけました。その理由は五銭は（四銭を越えるから）死線を越える、十銭は（九銭を越えるから）苦戦を越えると、もじったようなものです。又病院やアパートでは四の番号を忌みきらう。それは死に通じるからだというのです。結局人間は弱いもので表面でしか判断出来ない。内心に真実のものを持たないと、何事にもおびえていかねばならないのです。親鸞聖人はそうした妄信を一切排除して、如来の真実に信順し、強く明るく生きぬくことを示されたのです。

●怒りと羞恥心

磯村　真一

先日マイカルに行った時のこと、ついこの前まで大きなカボチャがフロアに転がっていたと思ったら、それがもう撤去してあって早くもクリスマスツリーが飾ってあった。

ハロウィンの次はクリスマスということだろうが、日本人はどうして外国の祭りが好きなのだろうか。というより、お店の戦略に私達がハマッてしまっているような気がする。

そんな商戦が始まった中、音楽に合わせて腰を振る人形を見つけた。毎年この時期になると店頭に並ぶが、一人でそれを眺めていたらついこっちまで腰をフリフリしてしまった。それを通りすがりの子供さんに見られて、親に「あそこのおじさん、腰振って踊ってるよ」だって。

おじさんと言われてとても腹が立ったが、それより腰をフリフリしているのを見られたことの方が恥ずかしくその場を逃げ出した。

●仏法は押し売りしない教え

梶　純信

かつて三河の七三郎というお同行は、自分の妻を一度もお寺参りに誘わなかったそうです。ある時、その妻が偶然にお寺参りをして、胸をうつご法話を聞きました。彼女は早速家に帰り、七三郎に向かって、この私にこれだけ大事なことを一口もいわず、お寺参りを勧めてくれなかったのは何故か、とつめよりました。そのとき七三郎は、「それはこのオレが出るまくではないからのう」と答えたそうです。

人間、自分が正しいと思えば人に勧めて、押し売りのように相手に強要するものです。

ところが、強要すれば反発があり、争いのもとになります。国と国の間においては戦争にまで発展しかねないことです。

七三郎夫婦の逸話には争いはありません。

お寺参りをしない人を参らないものの、その人格を認めており、時機の熟するのを待っていたのです。

仏法を聴聞するものの心の広さ、豊かさが感じられる逸話です。

日頃、自分が一番正しいと考えがちな私たちですが、この逸話に学び、自らの姿を仏法に照らしてもう一度顧みなければならないと思います。

●いそがなければならないこと

温井　卓生

世の中が便利になればなるほど、人間は忙しくなるようです。理屈からいうと、世の中が便利になった分だけ、人間がゆっくりできるというのが本当なのに、現実は、便利になった分だけ忙しくなるようです。人間が便利を使うのではなく、便利に使われているようです。それで「これもしておかねば、あれもやっておかねば」と、便利さに追いかけられて、忙しい忙しいと、右往左往しているのが、私達の毎日です。そんな私達に、本当に急がなければならないのは、仏法聴聞であると、蓮如上人は教えてくださいました。多くの命に生かされて生きているわが命でありながら、自らの利益にあけくれて、大切な命を空しく過ごす、それも、わが命を生かしてくださる命を踏み台にして、自らの幸せを求めているのです。何とおそろし

いことでしょうか。そのような努力はどれほどつづけても本当の幸せには至りません。わが命を生かしてくださる多くの命の幸せを願うことなしに、わが命の幸せはありません、と教えてくれるのが、仏法です。ですから、本当の幸せを求めるならば、自分のやっていることのおそろしさに気づかせていただき、仏法を急ぎ求めることです。

●おまかせ

日野　尊行

私は、たった一人の私の人生を歩んでいます。それは唯一のものであり、それ故に尊いものです。しかし逆の見方をすれば、何十億ともある人生の中で、どんなに頑張っても、たった一つの人生しか知り得ないということでもあるのです。つまり、私がどんなに突き詰めてこの人生を生き抜き、歴史に名を残す人間になったとしても、それ一つの人生しか知らないのです。その私が、どうして他の人のことをどうこう言ったり、世の中の善悪を語ったりできましょう。例えもし、今誰から見ても正しい善人であったとしても、何らかの縁に触れ、ただちに悪人になってしまうのが、私たち人間なのです。自分の都合によってものの見方、考え方がコロコロ変わる私たち人間の側には、善悪を語ったり、人が人を裁くことはできません。それ故に、すべて仏の側におまかせなのです。

●生きている

村田　法道

以前ある御門徒さんからこんな質問をされたことがございます。「人は何で生きていかなければならないのかのう？」と。その方は、旦那様と息子様に先立たれた御婦人の方でした。私はこの問いに答えられませんでした。というよりも、私自身も本当のところわからなかったので答えられなかったのです。実は人は何故生きていくのかと問うのではなく、「生きている」ことは人間の力によるのでなく、あたえられたものであったと受けていくのです。生きているのは、自分の力と思うから、自分の生命を粗末にしてしまいます。自分の命を粗末にするから人の生命を殺すことも何とも思わなくなるのです。私の生命はあたえられたものでした。仏教とはこの根本的な事実に目覚めさせることであります。今回の御門徒様とのご縁によって気づかせていただきました。あたえられた生命であるということは、私の人生を大切にし、どんな粗末なものにも両手が合わさるのでございます。

●ふれあい

阿部　慶剛

「人はみな～一人では～生きてゆけないものだから～」中村雅俊さんの『ふれあい』という曲の中で確かこういうフレーズがあります。▼木の実を鳥が食べ糞をして、地面に肥料と植物の種を与える。獅子が鹿を食べ、鹿が増えて草木が減るのを抑制している。▼私達はよく一人で生きているものだと勘違いをします。私達は様々な他の力を借り、頂いて生きています。お金という手段を使っている為に見るべき所を見ていないだけです。▼環境破壊が進行中の地球。人間中心と考えている私達のエゴイズムに他なりません。一見エゴに見える動植物達の世界は食物連鎖の助け合いの社会です。▼普段の生活の中にある、米一粒・鉛筆一本・寝ている布団・トイレ。私の人生が他の手を借りて、他の生命を頂いて生活しているということをもう一度考えるべきであります。

●過去と向き合う

猪口　大悟

明治初頭の頃、教壇に立っていたある外国人教授に向かって一人の学生が「日本には歴史がない」と言いました。その外国人教授は驚き「日本は古い歴史のある国ではないのか。」と言い返すと、学生はこう言いました。「日本の歴史は我々がこれから創るのだ。」と。

これは一見、未来に対して積極的な態度のようにも見えます。しかし、果たしてそうでしょうか。

過去無くして現在はあり得ません。故に未来も無いのです。我々は未来を見るあまりに過去を忘れ、同じ過ちを繰り返します。「歴史は繰り返される」とよく言われますが。繰り返させているのは我々なのです。因（原因）と縁（条件）によって果（結果）が生じます。過去をしっかり見据え、向き合うことこそが、過ちを生まない秘訣であると思います。

●沈黙の臓器

相馬　早苗

毎日少しずつ寒くなってきましたが、これからの時期、年末年始になると暴飲暴食になる機会が多くなると思いますが、この暴飲暴食をすることによって、やはり体には負担がかかってしまいます。

私たちが口にする食物の栄養素を必要とされている物質に作りかえ、体内の状態に応じて貯蔵したり、血液中に送りだしたりとする働き者の機能をもつ肝臓は、かなり無理がきき、多少のダメージを受けても弱音をはかず、壊れた部分は自分で治しながら黙々と役割を果たし続けるがんばり者なのです。またアルコールや食品添加物、病気を治すための薬でさえ、体にとっては異物とみなし、有害な物質を分解・処理し、無害なものに変えて体外へ排出する働きをしています。しかし、弱音をはかないということは、痛いという合図を出さないため私達はついつい肝臓に無関心になってしまいます。ですから、時には暴飲暴食でストレス発散するのもいいですが、くれぐれも働き物の肝臓のごきげんを損なわぬよう心がけていただきたいものです。

●みず

渡部　恵

「谷川をさらさら流れる水は、長年かかって谷川の中の小石の角をとって丸く変えてしまいます。」これは、柔軟性をもつものが、剛直なものよりも強く、自然にさらさら生きていくということを表しているそうです。

しかし、現代社会においては、強くなければ生きられないなどと言われています。一般的には、硬いものの方が頑丈で、軟らかいものの方が壊れやすいという見方がありますが、どちらにも弱点は、あると思います。人の生き方で例えるなら、実際、川のように自然に生きていくという事は中々難しい事です。硬意地や見栄を張ったりせず柔軟性を持ち、何が起きようとも、避ける事なく自然体でいけたら良いなと思います。

2002年（平成14年）年回表

1周忌	平成13年
3回忌	平成12年
7回忌	平成8年
13回忌	平成2年
17回忌	昭和61年
25回忌	昭和53年
33回忌	昭和45年
50回忌	昭和28年

～まこと（いのち）の保育を行ないます～

みんな仲良し 小樽幼稚園

当園では、浄土真宗のみ教えに基づき「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」などを育てるよう保育に努めています。
又、お絵かきや工作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、週に2・3回クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。

11月より願書受付しておりますので、宜しくお願いします。ご近所、皆様お誘い合わせて、是非一度見学にお越し下さい。

★保育時間 →月曜日～金曜日（8:40～13:30）

★昼　　食 →毎週火曜日は、給食（パン・飲み物・デザート）で、それ以外の曜日は、お弁当です。

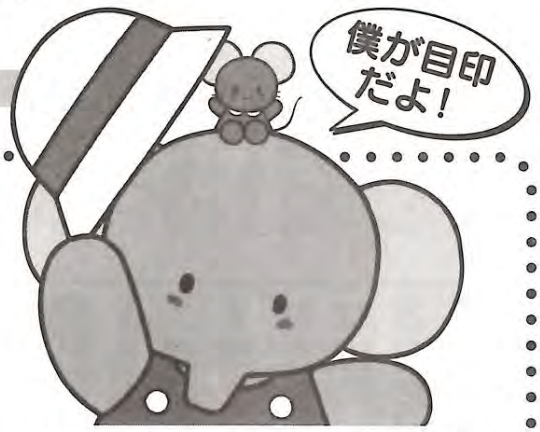
★預り保育 →月曜日～金曜日（17:30迄）行います。（15:00迄は無料です）

★プール遊び →年間を通して、週1回温水プール遊びを行っています。

★送迎バス →ご希望の方は、ご自宅付近まで送迎致します。

★主な行事 →花まつり・降誕会・運動会・海水浴・親子遠足・報恩講・お遊戯会・おもちつきなど。

園児募集



◎募集園児　3才児（3年保育）20名
　　4才児（2年保育）50名
　　5才児（1年保育）30名

◎願書受付　平成13年11月初めから現在受付中です。

◆街頭に園児募集のポスターを掲示しています！◆

学校法人 小樽龍谷学園 **小樽幼稚園**
小樽市若松1丁目4番17号　TEL 0134-22-6536

季刊 第五十八号 発行者 本願寺小樽別院 発行人 片山 晃英